一票で変える女たちの会

かわらばん

第 34 号　2020 年 10 月 15 日

＜南北朝鮮とわたし＞5　50 年前の話だけど、50 年後の今だから話せること……宮本一美
O・J・シンプソン事件から見えたもの……角田由紀子
＜投稿集・コロナ禍　災厄のなかにあっても＞
1.「シリアにて」──リアリティ溢れる劇映画　……和多田雅子
2. 異常気象とコロナ禍の中で～辿りついた 1 冊の本……T・I
3. RBG と呼ばれたアメリカ最高裁判事を悼む―映画『ビリーブ』『RBG』……角田由紀子
99 パーセントフォーラム第 8 回シンポジウム報告……羽立教江
Dialogue for People のウェッブサイトから──エッセイ「国籍と遺書、兄への手紙」
「兄へ　もう、死ぬために働くのはやめよう」……安田菜津紀
一票で変える女たちの会・Facebook から

シリーズ〈南北朝鮮とわたし〉5

五〇年前の話だけれど、五〇年後の今だから話せること

宮本一美

私にとっての韓国との出会いと言えば、学生時代の仲間四人の中のひとりが在日三世だったことだ。彼女（伊集院さん）はその後、陶芸の道に進み、一九九〇年代に沖縄の渡嘉敷でアリラン慰安婦慰霊モニュメントの制作をすることになる。

五〇年前、大学移転や大学立法のことで一〇数人がよく集まっていたが、ある日ひとりが新宿の街頭で田中美津さんが配っていたガリ版刷りの「便所からの解放」をもらってきた。そのあと、おそるおそるできたばかりの新宿リブセンターを訪ねたのが専攻も学年もちがうこの四人だった。

卒業後のしごとを自分たちで作れないかと考えていたとき、学校の図画工作の時間に生徒たちが作った陶芸作品を窯で焼く仕事の話があり、無謀にも窯を自分たちで作ることにした。

ブロイラーの鶏小屋あとを借り、自分たちで改装し、耐熱レンガを積んで窯を作った。私たちは学生時代もほぼ毎日時間を一緒に過ごしていたが、窯と作業場をつくるようになりちょっとした共同生活になった。彼女が在日であること、外国人登録証を持っていること、韓国名が李又順（りそうじゅん）（当時は日本語読みで教えられた）であることは、学生時代から知っていたが、いつ、どのように伝えられたのか誰も覚えていない。

一緒に作業をすると、いろんなことがおこる。よく笑いよく言い合いドタバタと過ごしていた。個性と個性のぶつかり合いのなかで差別をしないようにとか、差別されているとかあまり意識していなかったと思う

が、はたしてどうだったのだろうか。五〇年前、彼女は私たちとすれちがっていると思ったことがあったのか。この五〇年の間に幾度となく会ってはいるがこのことについてちゃんと話はしていない。

伊集院さんに会って話してみようと思っていた矢先、彼女から旅の途中に私のところに寄りたいと連絡があった。そのときはあまり時間もなく、同伴者もいたので、後日会いにいく約束をして別れた。

持ってきてくれた「アリランモニュメント慰霊のつどい」のパンフレットを見て、慰霊碑の制作者として二五年間、その保存に関わり続けてきていることを知った。その式典での挨拶で彼女は、

「イ・ウスンです。父も母もこの国でうまれ、私は日本の教育をいっぱい受けて育ち、学校もカトリックの学校で何も知らずに育ちました。ハルモニたちが一生懸命頑張る姿が私の根源に強くやきつけられました。

私の子供たちに日本と韓国の悲しい歴史をまげずに伝え、二つの血を持つということがどんなに豊かなことなのかを伝えたいと思います」

と話している。

そう言えばあの当時、話が煮詰まると彼女が「私には大陸の血が流れている！」と言い放つことがあった。それを言われると負けた！ というか負い目を感じ何も言い返せなくなる自分がいた。今回彼女にそのことを話したら、「そんなこと言ってたんだねっ」と笑っていたが、今は彼女はその血が創作の源になっていると強く意識しているようだ。

韓国ＫＢＣテレビ（二〇〇三年）の取材に彼女はこう答えている。

「韓国の焼き物は白磁にしても青磁にしてもとてもやさしい。もし私にその血が流れているなら、神さま、私にすばらしい作品をいっぱい作らせてくださいと祈りたいね。

父から自分たちの血はきれいだ、純血だって言われていたのだけれど、朝鮮人韓国人という実感はあまりなかった。学生のときに韓国五千年展があって、それを見に行ったとき、あっこれだ、私はこの血なんだ、観た瞬間にこれなんだって思った。それは言葉ではなかった。私にはこんなに長い歴史があって自分がいるんだから、私が心から作ればいいんだと思った」

私には大陸の血が流れている、と叫んだのはそんなときだったのかもしれない。たしかにそのころ彼女は芸術は爆発だ!! という感じで一心不乱に作陶していた。

久しぶりに訪ねた彼女の家は澄んだ気の流れる本当に気持ちのいい空間だった。ともに過ごした時間の中で、在日だということで他の三人と自分の思いとがすれちがったことがあるかどうか、私は聞いてみた。

「私は指紋押捺拒否もしていなかったし、差別を訴えるということでもなかったけど、在日ということの思いを話そうとした時『そんなこと関係ないよ。あんたはあんただよっ！』て言われてかみあわないな〜と思った」そうだ。その頃は曖昧だった思いをあることをきっかけにはっきり思いだしたという。伝えたかったその思い、切なさを話してくれた。

「幼稚園の入園試験の面接のあと『真理子は身体が大きいし頭がいいから幼稚園いかなくていいんだって』と母親に言われた時、何かこれ以上言ってはいけないと思った。姉や兄、親が仕事から帰ってくるまで隣の人たち（日本人）が親切に面倒をみてくれていたがその時期がとても寂しかった。小学校三年生のときに転校して以来土台がないこと、下がないという寂しさを感じていた。日本で生まれた日本人にはわからないと思う、この気持。足の下がさらわれている、常にさみしい風がながれている、下に着地できていないと感じることがあった。親が民族教育をしていなかったから余計そうだった。つねに砂地を踏むような、これはなぜだろうと思う肌寒さを感じていたんだと思う」

私はこれを聞いて「地面の底がぬけたんです」というハンセン病の女性の手記の題名を思いだした。私に「この思い」はあっただろうか。私たちはあなたをまるごと受け入れているよと伝えたつもりだったのか、いやそんなかっこいいものではなかったな。

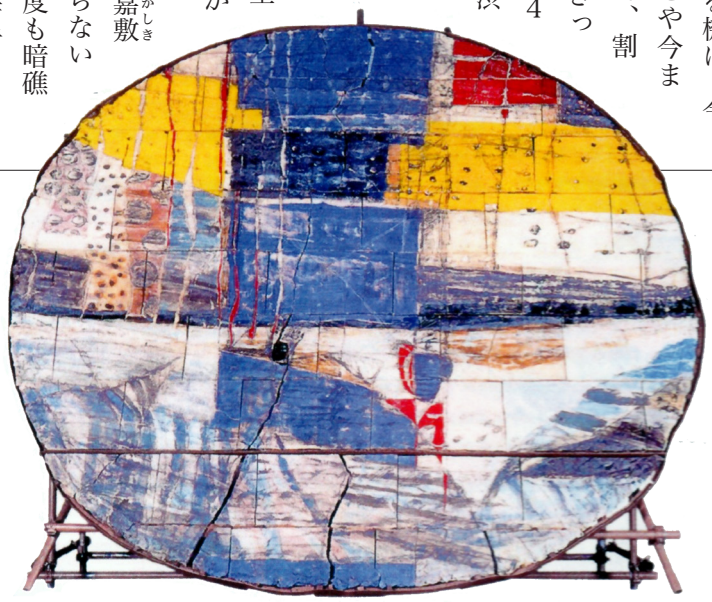
窯ができたあと、私たちはひき出物のぐいのみや、よく行っていた飲み屋の灰皿など共同で作ったりしたが、定期収入のはずだった学校からの仕事は立ち消えていた。話し合いの結果，唯一陶芸の道でやっていこ

うと決めた彼女が工房を引き受け作陶生活を続け、工房の一部を住まいに改装し日本人と結婚。伊集院真理子として帰化。子供二人を産み育てながら図書館の陶壁制作など精力的に制作活動を展開していた。

その後、夫との離別を機に「今まで言いたかったことや今までの歴史を全部こめて、割れてもいいと、思いきって創った」という直径4メートルの丸い陶板を渋谷のギャラリーで発表。何人もの人が泣いたというその作品が評価され、集団墓地の墓のふたや、集団納骨堂の壁など死のことを学びながらの仕事が続いた。

そんなとき沖縄の渡嘉敷（とかしき）で慰安婦慰霊碑をつくらないかという話がきた。何度も暗礁にのりあげたが二年間若者たちと一緒に暮らしながら制作、一九九四年完成。「韓国人、うちなんちゅう、やまとんちゅう、立場の違う者が集まり率直に意見を言い合い、力を合わせて作りあげたいと思った」モニュメントの立ち上げ記者会見で自分は在日三世であることを言い、ここでカミングアウトした。

「島で暮らすなかで集団自決のことがわかりはじめた。そういうことが今も大きくのしかかっていることに気がつくの。自分の寂しさとこの寂しさの質がすごく似ちゃったの。沖縄のことと従軍慰安婦のこと、国のこと、人の気持ちの問題、全部ひとつの根なの。沖縄での二年間で人生がものすごく変わった」（渡嘉敷島は三一五人が集団自決で死んでいる沈黙の島と言われる）。



真理子マンダラ

はじめて韓国に行ったときのことも話してくれた。

「私をきっかけに韓国を知った陶芸家鯉江良二さんが、韓国に行くなら、玄海灘を渡って行きたいという私の希望を聞いて、ツアーを企画してくれた。

彼は、日本人は文化としての焼き物（陶芸）を韓国から奪った。だから俺は韓国に返しに行くんだと陶芸を通じた交流をしていた。鯉江さんを慕っていた韓国の陶芸家の山奥の工房に私が滞在していると、反日感情を持っている彼の中学の同級生たちがやってきた。韓国語ができないパンチョッパリ（半日本人）がなんで居るんだみたいなことを言っているらしかったので、日本に留学していた子にとにかく全部訳してって頼んだ。『だってしょうがないでしょ、今、もうここにいるんだから。わたしはやっときたのよ。やっとこれたのよって』、言った私も必死よ」

いかにも彼女らしい対応だ。次の日から彼らは毎日のようにヌナ、ヌナ（お姉さん）と言ってやって来てどんちゃん騒ぎだったらしい。

「歴史は私たちみんなを翻弄したよ。でも人って出会うことよ。でもやっぱり、本国の人とすごい溝があるよね。向こうはもっと苦労しただろうというのはわかるもん。

私の両親は相当な苦労をして不自由のない暮らしをつくってくれた。何より、人を信じられるように私を育ててくれたことに感謝している。韓国人として韓国語しゃべれないのはもったいないし、これからも生きていくんだから、韓国に行ってもっと深く話をしたいっていうのがある。それを翻訳してもらうっていうのは悲しい。韓国の食べ物は何でも食べられちゃうし、私はどんなところにも行けちゃうんだけど、言葉がしゃべれないから自分は韓国人だと言いづらい、そんな自分をなさけないと思っている。自分の国語という意味でぜったい取り戻すべきだったし、七〇過ぎた今からでもやらなくてはいけないと思っている」

長い間会っていなかったのに昨日まで会っていたかのようにあのさ～と電話をくれる彼女は、いつもやさしくエネルギッシュだ。

かつて私たち四人が集まるきっか

けをつくった仲間のひとりは絵画教室をしながら共同保育の草分けとして活躍した。しかし四〇代で膠原病を発病し早逝してしまう。今回、もう一人の仲間と会って五〇年前のことを話し合った。直接三人で話せたらと思ったがコロナ禍で私がそれぞれ別に会うことにした。

アリラン慰霊のモニュメント
沖縄県島尻郡渡嘉敷村

彼女は特別支援学級の仕事を定年まで勤め、今も後方支援でのさまざまな活動で忙しい。私は彼女の紹介で特別支援学級の講師を一五年したあと、鶏小屋の改装での大工仕事の楽しさが忘れられずリフォームの大工になった。

今回私が原稿を書くにあたり彼女を巻き込む形になってしまったのだが、この時期に振り返ったのは自分にとってもとても良かったと言ってくれた。仕事中心の生活のなかで朝鮮半島や従軍慰安婦のことなど、脇に置いてきたこととこれからを考えたという。それを以下の原稿にして送ってくれた。

いま思うこと

五〇年来の友人からの声掛けで、今、思うことをまとめてみました。本シリーズ1（かわらばん三〇号）の発言にある「このところの日韓関係悪化の修復」を願う一人です。

宮本さんの原稿で紹介されたように、同窓の友人たちとブロイラー鶏舎を手直しし、窯を作り、陶芸工房を作った。三人はよく働いたが、私はどちらかというと畑仕事やペンキ塗り等、リフレッシュとして楽しんでいた。伊集院さんが在日三世ということは、人づてだったか聞いていた。顔を合わせる時は目の前にやることが幾らでもあり、いろいろな人が出入りし、それらに忙殺されていたと思う。

伊集院さんは持ち前の行動力で提案し、実行し、何しろ話が面白かった。私は数年後、自分の進む方向がどうやら学校教育だと思うようになり就職した（ところで五〇年前は、韓国の若者達の活発な政治行動が盛んに報道されていたっけ）。

現場に出て一から勉強し直す日々、介護も重なって、渡嘉敷でのアリラン慰安婦慰霊モニュメント制作の時期は、ほとんど連絡を取り合うこともなく過ごしてきた。今回のシリーズをきっかけに、それぞれの国を知らなければと思い、改めて朝鮮半島と日本、中国と東部ユーラシアの歴史を少しずつ学び始めている。この間「慰安婦問題」をどの立場で受け止めれば良いのか感情的になり混乱し、ネットで二〇一〇年一二月の日本弁護士連合会と大韓弁護士協会の「日本軍『慰安婦』問題の最終的解決に関する提言」に行きあたった。最終章「教育と広報について」で「教育を通じて次代の世代に、また広報を通じて現代の日本社会のなかに、この問題の実相がきちんと定着するようにする必要がある」と述べられている。また「かわらばん」二七号のなかの「『負い目』に正しく向き合い、変革の力に」という呼びかけに元気をもらえる。

歴史教育では、次代の世代には戦争を避け助け合うために色々な国で積み重ねられてきた努力と工夫を学び、より良い方法を創り出す経験と、多様性を尊重する実践をしてもらいたい。また学校に就学して一年目の子どもたちそれぞれが、集団生活の中で尊重され、安心して失敗し、努力しやり直せる機会と支援を工夫したい。自分が大切にされた実感が、将来の自分を勇気づけ、より良い方向に進む後押しをしてくれることを期待して。『負い目』『後ろめたさ』に正しく向き合うには勇気がいる。

O・J・シンプソン事件から見えたもの

二〇二〇年九月二七日

角田由紀子

1　はじめに

この原稿は、私がアメリカ留学中であった一九九五年に日本の所属グループの機関誌（「いま」）に寄稿したものという記憶だが、手元に残っている理由は不明だ。万年筆の手書きで二〇〇字詰め原稿用紙一七枚に書かれている。寄稿することで書いたのに送らなかったのかもしれない。発行されたはずの「いま」も手元にはない。先日のコロナごもりの断捨離で積み上げてある書類中から発掘した。読んでみると、今（Black Lives Matter が沸き上がっている）も通用するかもと思い、パソコンで打ち直した。

O・J・シンプソン事件といっても今となっては何？ という人が多いだろうから、少し説明する。O・J・シンプソンというのはアメリカの元プロフットボール選手で、スポーツキャスターとしてテレビ等で活躍し、テレビコマーシャルや映画にも出演していた。アメリカ人なら知らない人は少ないという黒人のスーパー・スターである。一九九四年六月一二日、ロスアンジェルスの高級住宅地で彼の前妻、ニコール・ブラウン・シンプソンとその男性の友人ロナルド・ライル・ゴードマンが夥しい血の海に倒れているところを発見された。シンプソンが有力犯人と疑われ、六月一六日、地方検事は彼を殺人事件の犯人として訴追することを決定した。一七日、シンプソンは警察に出頭することを約束していたが、出頭せず、車で逃げた。その彼を追うカー・チェイスが全米に放映された。私は、その年の秋からの留学準備で一七日にサンフランシスコにつき、ホテルのテレビでこのカー・チェイスを見た。

その後の裁判の模様はコートTV（法廷から実際に放映する番組、日本ではあり得ない）等でこれまた全米に放送された。このような経過のため、その判決が注目されていた。以下が一九九五年に私が書いたものである。

2　評決の日

その日（一九九五年一〇月三日）のアメリカ全土の表情をニューヨーク・タイムズのある記事は「国が止まった」と書き出していた。日本でも報道されたO・J・シンプソンに対する前妻とその友人（二人とも白人）に対する殺人事件の陪審員による評決が言い渡された日のことだ。アメリカの成人人口の六〇％近い人がこの評決のテレビ生中継をみた。「無罪」という評決の結論は、評議時間が僅か三時間だったという報道から私の予想した通りであったので、そのことには多くのアメリカ人（白人）と違って驚かなかった。刑事弁護が好きだった私は、公判の経過をちょくちょくテレビで見ていた（公判のある日は毎日生中継されていた）ので、様々な矛盾や問題のみられる証拠をもとにして、一二人が全員一致で有罪の結論に僅か三時間で達するとは到底考えられなかったからである。それよりも私の興味を引いたのは、評決に対するアメリカ人の反応とそこから見えてきたアメリカ社会の直面している問題だった。

この日に評決が出されるということは前日に発表されたのだが、上院議員がこの日に予定していた自分の政治上の進退に関する記者会見を翌週に延期したというニュースを聞いたとき、私は単純にシンプソンの人気には勝てないということかしらなどと思った。そして、その議員の判断がいかに正しかったかは、すぐに証明された。午前一〇時（東部は午後一時）から三〇分間ほどほとんど全国的にすべての活動が止まった。長距離電話の利用数は全州の同じ曜日に比べて六〇％落ち込み、ニューヨークやシカゴの証券取引所まで活動を停止してしまった。クリントン大統領もテレビの置いてある秘書の部屋に移動したとか。「テレビ中継あり」と書き出したレストランは普段

の三〇％の売り上げ増であったとか。

なぜ、人々はこの評決に注目したのか。単純な理由の一つは、シンプソンが超の字のつく国民的英雄であったということだ。彼は、日本でいえば、王・長嶋あるいは美空ひばりのような大衆的支持を得ている有名人である。さらには、日本では考えられないことだが、全公判がテレビで生中継されていたことの影響だ。人々の「シンプソン中毒」（新聞はこう書いていた）は、評決の場面を見ないことには収まらなくなっていたということだろうか。さらには、事件の初めから「有罪」「無罪」の意見は黒人と白人で好対照をなしていたことからみれば、多くの人の関心が集まらざるを得なかったからと言えよう。

3　評決が暴き出したもの

ところで、日本人にとってこの事件を知ることにはどういう意味があるのだろうか。この原稿を頼まれたとき、まず、私はそれを考えた。単なる見聞報告であれば貴重な「いま」の紙面を使うことはない。

この事件（評決も含めて）が暴き出したことの一つは、刑事司法制度とは何かということであろう。日本にいると、裁判は何だか知らないがお上のする正しいことの一つに思われがちである。それが社会の権力構造の率直な反映であるという面は見えにくい。もう一つは人種差別問題の深刻さである。アメリカでは長い歴史を持つ人種差別の実相が、差別されてきた側の人々から告発されたのが今度の評決ではないだろうか。

評決後の報道での法律学者や裁判官、弁護士たちの意見を見てみると、この評決がアメリカの刑事裁判が今抱えている問題点を抉り出したという点では一致している。その最大の問題は、貧富の差による極端な不公平ということだ。ある法学者は「アメリカの刑事司法制度が今までなんとか機能してきた唯一の理由はほとんどの被告人が有罪の取引（以下の注は、筆者による。起訴後すぐの段階でより軽い罪での有罪を認めて刑に服し、公判は開かれない、つまり、通常、人々が考える法廷での裁判はない）に応じてきたからである。なぜなら、多くの人々は裁判を受けてその制度の恩恵に浴するだけの経済力がないからである。」と述べていた。シンプソンは、これの見事な対極を全米にくまなく見せつけたわけである。全米から集められた（超）一流の刑事弁護士たちによる「ドリーム・チーム」（夢の弁護団）の費用を含め、彼がこの裁判に使ったお金は五億円とも一〇億円とも言われている。この国では、金さえあれば何でも買える。終身刑だって金で叩き潰せることをあまねく知らしめたわけである。貧しさの故に、正義の恩恵に浴せなかった人、浴しようもなかった人々がこのことに怒らないわけはあるまい。「正義」という言葉がせせら笑っている現実を人々は見てしまったわけである。これで刑事司法制度が「正義」の実現を目指しているとか、憲法はすべての人に差別なく人権を保障しているといっても、普通の人々は、黒人も白人も「冗談じゃない！」と答えるしかないだろう。そのうえ、ここでは裁判（しかも、二人の人間が殺されたという事件の裁判）さえも、金儲けのタネに成り下がっているという現実も人々は見せつけられた。弁護人はもちろん、陪審員が本を売り出すことが計画されている。テレビ中継のお陰で、主任弁護人のカクランやシャピロを知らない人はアメリカ人ではないという感じで、シンプソンと共に超有名人になった彼らにはさらに金が儲かり有名になる「仕事」が舞い込んでくるという仕掛けだろう。「あれは裁判でなく、テレビ中継されているサーカスだ」と苦々しく言う人もいた。

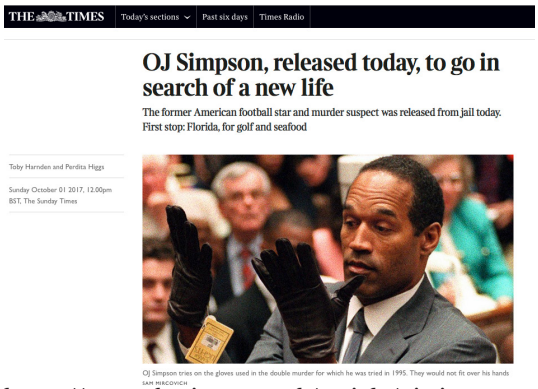
さらに、刑事裁判の信頼性を支えていたはずの警察官など捜査官の中にはとんでもない人種差別主義者がいて、いい加減な捜査はするし、黒人を罪に落とすためなら、証拠の捏造も朝飯前ということもどうやら本当らしいということも、全米に電波と活字で流布された。刑事司法制度の基礎はどこにあるのかが、反面教師的に示されたわけである。今までだって刑事司法制度は「権力者」（女にとっての男や市民にとっての役人など）に有利に働いてきたというのが事実であるが、その本質はなかなか見えにくいものであった。

4　人種問題の深刻さ

この国の人種差別の問題の深刻さを私のような部外者が述べる資格はないことを承知の上で二、三のことを書いてみたい。

たまたま、私は今ロースクール

で「人権、貧困、刑事司法制度」という講義を聞いている。少しだけ分かったことは、ここの刑事司法制度が、実は白人と黒人とでは全く違うものであることである。このダブルスタンダードについて歴史的観点からと今日の問題点と二つの面からの勉強を始めたばかりである。因みにこの講義をしているのは、若い黒人男性弁護士で南部のアラバマ州で死刑囚（大部分は黒人）の事件を専門に扱っている人である。アメリカにはこういう専門家がいる。彼は六〇年代の輝かしい市民権運動の成果が唯一及ばなかった分野が刑事司法分野だった、なぜならそこにいるのは「犯罪者」だったからと最初の授業で語った。これは、アメリカ合衆国憲法修正一三条による。一三条は、奴隷制は廃止し、黒人を含めたすべての人に自由を認めたはずだが、「犯罪者を罰する場合を除く」ことになっている。


THE TIMES | Today's sections | Past six days | Times Radio

OJ Simpson, released today, to go in search of a new life

The former American football star and murder suspect was released from jail today. First stop: Florida, for golf and seafood

Toby Harnden and Perdita Higgs

Sunday October 01 2017, 12.00pm BST, The Sunday Times

OJ Simpson tries on the gloves used in the double murder for which he was tried in 1995. They would not fit over his hands SAM MERCOVICH

https://www.thetimes.co.uk/article/oj-simpson-released-today-to-go-in-search-of-a-new-life-jbgfjbcqx

評決の二日後に、二〇代の黒人男性の三人に一人が刑務所・拘置所をはじめ何らかの刑事手続下に置かれているという衝撃的な調査結果が発表された。この数字は、五年前には四人に一人だった。この世代の黒人男性で何らかの教育機関に在籍している人の数は刑事手続下に置かれている人よりも遥かに少ない。レーガン政権下で黒人やマイノリティをより不平等に厳しく処罰する方針がとられた結果、今では黒人は白人の七倍も多く刑務所に送りこまれている。

奴隷制時代以来のダブルスタンダードは現在も生きていることは当事者が最もよく知っている。一九三〇年代になってすら黒人「犯罪者」（でっちあげで犯罪者にされた人も含めて）に対する白人のリンチは言語に絶するものだった。「リンチ」は辞書には「私刑」とあるが、黒人に対するリンチはまさに治外法権行為であった。刑務所を白人が襲撃して囚人である黒人を引きずりだして、裁判所の庭（とは限らぬが、そこでも）で木から吊るして焼き殺す、それを白人がお祭り騒ぎで見物するというのがリンチの実態であった。警察官や看守はこれらの白人群衆が黒人に近づきやすいように動いた。リンチの模様は写真にとられ、絵葉書として売られた。リンチがあると黒人は自分たちへの襲撃を恐れて家や財産を捨てて逃げだすので、白人たちは、その町から黒人を追い出した上に彼らの財産を頂いてしまうという一石二鳥の効果があった。陪審員に黒人がなれるようになった現在でもオール白人陪審団から黒人が裁かれることが終わったわけではない。黒人が白人を殺した時の方が、その逆よりも重く裁かれてきたという歴史がある。強姦についても同様であった。

陪審員選出の時に、弁護・検察双方は「専断的忌避権」（理由を示さずに陪審員を排除できる）を行使できるが、これが人種差別的に行使されてきている。こういう歴史的背景と現状のダブルスタンダードの文脈に今回の評決をおいて見ると、多くの黒人が狂喜したのもうなづける。「黒人が白人を殺した（シンプソンが犯人であれば。被害者は二人とも白人）」事件で、黒人が圧倒的に多い陪審団（一二人中九人）が無罪を評決したことのアメリカ社会に与える意味は大きい。シンプソンという途轍もない金力と超有名人という地位を持った人物は、この「歴史」をひっくり返すには最適の人物だったといえよう。

顕在的かつ潜在的にある人種ラインが今回の評決でよりはっきりと見えてきたわけで、共和党支配下の政治的環境の下で貧困層の多い黒人をさらに貧困と刑務所へ追い詰めようとする政策が進められている。そこへこの評決への反発から新たな黒人へのバックラッシュの兆しを見ると、「このままではアメリカは破滅に向かうしかない」というあるコラムニストの言葉が迫力を持ってくる。（一九九五年　了）

5　終わりに

なお、この事件については『O・J・シンプソンはなぜ無罪になった

か』（四宮啓著、一九九七年現代人文社刊）が正確な資料に基づき、陪審裁判研究者としての成果を纏めている。弁護士である四宮氏は、友人で私と同じ時期にカリフォルニア大学バークレー校に留学。二人とも事件発生直後から評決までアメリカにいた。

二〇二〇年七月にネットフリックスが配信したドキュメンタリー番組「13th　憲法修正第一三条」が人種差別問題を詳しく取り上げているし、朝日新聞デジタル、「今こそ聞きたいＤＸ」の九回目「『奴隷制、今も』黒人作家が語る憲法一三条のわな」*も参考になる。（了）

＊「今こそ聞きたいＤＸ」朝日デジタル有料記事
https://www.asahi.com/articles/photo/AS20200801002707.html

ドキュメンタリー「13th　憲法修正第13条」
ネットフリックス配信

シリーズ・コロナ禍

災厄のなかにあっても

1.

「シリアにて」リアリティ溢れる劇映画

和多田雅子

なぜか私はドキュメンタリーだと思いこんで観に行った。タイトルがそう思わせたのかもしれない。ところが、なんとフィクションドラマだったのだ。事程左様に、私は事前の情報がなにもないまま、この映画を観ることとなった。

しかしこの映画は、私の中に根強くあった思い込みをもののみごとにふきとばしてくれた。〈どんなにがんばっても、リアリティという点ではフィクションはドキュメンタリーには勝てない〉という私の持論は、劇映画「シリアにて」に溢れるリアリティによって、あっけなく崩れ去ってしまった。

二十一世紀最大の人道危機といわれるシリア内戦。一〇年目に入り、二〇二〇年三月現在、死者は民間人を含めて三八万四〇〇〇人を超え、難民や国内避難民は一一〇〇万人に上るといわれている。

映画の舞台は、シリアの都市のあるアパートの一戸。自宅にとどまる選択をした一家が、そこを隠れ家のようにして身を潜めて暮らしている。外では銃声や爆撃音が響き、救急車のサイレンやヘリコプターの音が鳴りやまない。

登場人物は全部で一〇人。主人公は（おそらく戦闘に参加しているのであろう）夫のいない家を守るウンム。その二人の娘と少し年の離れた幼い息子、義父。（友人から預かっているらしい）青年。そしてメイドのデルハニ。さらに、アパートの上階の住人で生まれたばかりの赤ん坊のいるハリマとその夫が、隠れ家の一室に身を寄せている。

この映画の特筆すべき点〈その1〉は、空間の限定だ。

カメラが追うのはこの一家が生活する隠れ家の中のみ。戦闘場面も廃墟も写らない。響いてくる爆撃やサイレンの音によって私たちは戦闘の激しさを想像し、他の住人は逃げ出してしまい、どの部屋も空き家になっているであろうアパートのようすを想像する。

水道管は破壊され、水汲みは一日の大切な仕事だ。戸外に出なければならず危険をともなう。主婦ウンムに言いつけられてその任を負うのはメイドのデルハニ。爆撃がおさまったところを見計らって行うが、状況が悪化したとみるやウンムはあわてて彼女を呼び戻す。

爆撃音がさらに激しさを増してくると、隠れ家の住人は全員キッチンに集まってくる。椅子にもたれたり床に座り込んだりしながら、皆が身を固くし緊張した面持ちでじっと天井に目を向け、飛行機が去っていくのを待つ。

彼らの生活をおびやかすものは、爆撃と銃撃だけではない。空き巣を狙う強盗の存在もそのひとつだ。上階の足音やドアのノック音のたびにビクッとする彼ら。

ドアに渡された二本の太い閂――それはこの住まいが隠れ家であることの象徴だが――たびたび映し出されるこの横木が、ときにはたくましく、ときには頼りなく見える。

この映画のリアリティを高めているのは、こうしたいかにも戦闘下の生活場面だけではない。

早朝の台所で、大切な溜め水を洗面器に移して顔を洗う女性のうしろ姿。バスルームの洗面台を丹念に磨く指先と真剣な眼差し。書斎の椅子に腰かけてお茶を飲む老紳士の姿。カメラは、これら日常の無言のシーンをていねいに拾い、きめこまかく描く。

さりげないが余韻を残すこれらの無言の映像はときには美しくさえあるが、この映像美は決して現実の厳しさを弱めることなく、むしろその理不尽さを浮き彫りにする。これこそ劇映画「シリアにて」のリアリティを高めている特徴であり、えも言われぬ魅力にもなっている。

この映画の特質すべき点〈その2〉は、時間の限定である。描かれるのは、ある日の早朝から翌日の早朝までの二四時間の隠れ家内の出来事である。

そしてその日、身を寄せている隣人のハリマの身に起こる事件をめぐって物語は展開する。

朝、ハリマの夫は家族三人でベイルートへ脱出する計画を彼女に告げ、その手続きのため外出することに。夫は一瞬逡巡の表情を見せ、脱出することへの後ろめたさを口にするが、意を決したように家を出ていく。

が、そのとたんに狙撃手に撃たれて駐車場に倒れこんでしまう。その様子を、窓越しに目撃し驚愕したメイドのベルハニは、すぐ女主人ウンムに知らせる。しかしウンムは、赤子を抱えたハリマが冷静さを失って戸外へ飛び出していく危険性を考え、この事実をすぐにはハリマに伝えない選択をする。

午後になって、恐れていたことが起こる。二人組の強盗が押し入ってきたのだ。全員急いでキッチンに集合するが、部屋に赤ん坊を置いてきたハリマは一瞬遅れてしまい、キッチンに入れない。

あっけなく強盗に見つかってしまったハリマ。恐怖におびえ、叫び声をあげながらも、「他にだれか隠れているのではないか」という執拗に繰り返される問いには、決して口を割らない。

結局レイプを受け入れていくその後のふるまいは、私には彼女が隠れ家の住人すべての生贄になろうと覚悟しているようにもみえた。

このとき、なんの脈絡もなく、イングマール・ベルイマンの「叫びとささやき」の一場面を思い出した。死にゆく女主人を抱きかかえた女中アンナの姿がまるで聖母マリア像のように見えた瞬間とオーバーラップしたのだ。

強盗が去ったあと、「なぜ私をキッチンに入れてくれなかったのか」と難詰するハリマに、ウンムは動じる様子も見せず、「生き残るため」と答えるシーンがある。

さらに印象的だったのは、ウンムの（一〇代後半と思しき）二女が、

ハリマに「あのとき、怖くて怖くて。自分じゃなくてよかった、と思ってしまった。ごめんなさい」と謝るシーンだ。ハリマは黙って彼女を抱き寄せる。

当然のことながら、この事件によって全員が心に深い傷を負ったのだ。様々な無言のシーンによって、その傷の深さがひしひしと伝わってくる。

そしてさらに思いがけない展開をみせつつ、その日は終わる。

翌日の早朝。ウンムの義父がたばこを吸いながら窓越しに外を眺める姿がこの映画のラストシーンだ。

その憂いを含んだ表情から、私たちは、物語は終わったのではないこと、死や暴力と隣り合わせの新たな一日が始まったのだということを思い知らされる。

監督はベルギーのフィリップ・ヴァン・レウ。シリア難民やシリア系の映画人による検証を重ねながら作成したという。

インタビューで監督は、「これは戦争映画ではなく、戦争についての映画です。戦争は普通の人々にどんなことをもたらすのか、人々はどのように生き抜くのかを描いています」と語っている。また、「スクリーンの中で露骨な暴力を描くことはできる限り避けました」とも。

戦闘下の理不尽な暴力にさらされる市民の生活。戦闘や暴力シーンが、映像ではなく音を効果的に使う手法で描かれているからこそ、私たちの想像力はいっそう喚起されたのかもしれない。

「戦争のリアル」を伝える類まれな秀作であるとともに、私にとっては劇映画の新しい魅力を発見させてくれた画期的な作品だった。

第六七回ベルリン国際映画祭観客賞の他、世界各地で一八の賞を獲得している。

隠れ家生活を送る登場人物たちの閉そく感を、我がことと重ね合わせながら感じ取ったのは、新型コロナ騒動で閉じ込められ感一杯の生活を経験していたせいにちがいない。

岩波ホールの観客は五〇パーセントに制限されていたが、実際は一〇パーセントにも満たない入りだった。コロナのせいで、多くの人がこの素晴らしい映画を観る機会を逸してしまったことが、かえすがえすも残念だ。

2.

異常気象とコロナ禍の中で
～辿りついた一冊の本～

T・I

コロナ禍については、まだ不明なことが多く、不安もあるが、多くの人が語ったことを参考に、対応していくしかないと思っている。

一方、この夏は日本では七月の大雨、八月からの猛暑、世界でも森林火災があちこちで起きていて、気候変動の問題についても否応なく考えることを迫られている。私は以前から環境問題も考えていて、グリーンピースに加わったり、原発に反対したり、ＳＤＧｓを意識して過ごしてきた。

ところが〝ＳＤＧｓは「大衆のアヘン」である〟という書き出しで始まる本に出合った。斎藤幸平著「人新世（ひとしんせい）の『資本論』」*（集英社新書）である。

斎藤氏の発言については昨年頃から注目するようになり、私は『未来への大分岐～資本主義の終わりか、人間の終焉か』（マルクス・ガブリエル、マイケル・ハート、ポール・メイソン、斎藤幸平編、集英社新書）を読んだ。そこでの「コモン」の考え方に惹かれながらも、やや抽象的で消化しきれなかったが、その後「生活と自治」（生活クラブの広報誌）三月号で身近な問題と結びつけた発言を読み、関心を持ち続けた。

そしてこの九月に『人新世の「資本論」』が出て、さっそく読んだ。タイトルからは前著よりとっつきにくいと思ったが、読みはじめると、前著よりわかりやすい。学術的な研究に基づいた文献、資料を使いながら、まず深刻化している環境危機に対して気候ケインズ主義やＳＤＧｓで緑の経済成長を求めるのは現実逃避である、と述べる。そして現在の社会で起きている問題にも触れて、自由、平等で公正な「脱成長」論に結びつける。

ここでマルクスを今持ち出すのを不思議に思う人もいるだろう。私もその一人だった。若者がマルクスの名を知らなくなったと言われて久しいが、この若い学者がなぜ『資本論』を研究し、学術書でない一般図書のタイトルにまで選んだのかは不

思議だった。しかしこの謎も解けた（第四章）。近年世界各国の研究者たちによるＭＥＧＡと呼ばれる新しい『マルクス・エンゲルス全集』の刊行が進んでいて、日本の『マルクス・エンゲルス全集』（大月書店）以外にマルクスが書いた膨大な手紙や新聞記事、「研究ノート」も網羅されており、そこにマルクスの晩年の大転換が見られるとのことである。エコロジカルな理論的転換も見られ、それらが、世界が今直面している問題の解決に繋がるというのである。生産力至上主義とヨーロッパ中心主義を捨てて西欧資本主義を乗り越えて「脱成長コミュニズム」（コミュニズムと言っても、ソ連のような一党独裁や国営化体制とは異なる）に到達する過程を丁寧に辿った後、「では具体的にどうすればいいのか」ということについても世界の多くの具体例を紹介する。

　著者は執筆過程で新型コロナウイルスのパンデミックも経験し、これは歴史に残る規模だとしながらも、気候変動が齎す世界規模の被害はコロナ禍とは比較にならないほど甚大なものになる可能性があり、対策については気候危機とコロナ禍は似たものになるだろう、と見る。つまり「人命か経済か」に直面し、過剰な対策は経済に打撃を齎すとの理由で根本的問題への対策を遅らせると、人命も失われ、経済的損失も大きくなる、と。

　その対策と考える脱成長コミュニズムの柱として、①使用価値経済への転換、②労働時間の短縮、③画一的な分業の廃止、④生産過程の民主化、⑤エッセンシャル・ワークの重視をあげる。

　具体例として今年一月に気候非常事態宣言を出したバルセロナの市政（この宣言は自治体職員の作文でなく、一〇年前からの市民の力の結集）、同市とともに闘う各国の自治体がある。その秘密の一つは労働者協同組合である。

　また先進国の大都市が気候変動に与えている影響を認め、是正する「気候正義」を実践するために、その被害を受けやすいアフリカや中南米の女性から届けられる声を汲み上げることもしている。さらに逆に南アフリカの食料主権運動がアメリカの「サンライズ・ムーブメント」や「未来のための金曜日」、「ブラック・ライブズ・マター」運動にも連帯を求めている。すべての問題は繋がっているのだ。

　最後に、そうは言っても現在の日本では具体的に何をすればいいのか……と途方に暮れる私たちに対して著者は、アメリカのある政治学者の研究による「〝三・五％〟の人々が非暴力的な方法で本気で立ち上がると、社会が大きく変わる」を紹介し、グレタ・トゥンベリさんも最初は一人だった、一人一人の参加が三・五％にとっては決定的に重要だ、と結ぶ。

「経済は苦手」という人も多いと思うが、現在の具体的な問題にも触れていて、思いのほか読みやすい。一読をお薦めしたい。この若い学者の挑戦に応えて私も再度読み、次世代につなげる生き方を探りたい。

（二〇二〇年九月二八日）

＊人新世（ひとしんせい）とは、地質学の概念だが、人間が経済活動を拡張しすぎて自然を破壊し、パンデミックや気候変動をもたらしている状態をさす言葉（路上のラジオ九月二四日の斎藤幸平氏の言葉から）。

3.

ＲＢＧと呼ばれた アメリカ最高裁判事

角田由紀子

　二〇二〇年九月一八日、アメリカ最高裁判事、ルース・ベイダー・ギンズバーグ（Ruth Bader Ginsburg 以下、敬称略）が八七歳で、すい臓がんのために亡くなった。アメリカ内外で頭文字を取ってＲＢＧと呼ばれてなかなかの人気者であった。アメリカで三つの頭文字で名前を呼ばれるというのは、それを聞いただけで誰のことかすぐに分かるほどの全国的なスターであることを示す。例えば、ＪＦＫ（John Fitzgerald Kennedy）のように。彼女は若い女性たちからも愛されていたようだ。ＲＢＧの文字の入ったマグカップやＴシャツまで売られている。彼女がニューヨークのフォーダム（Fordam）大学を講演のために訪れたときの学生たちの、特に女子学生の、興奮ぶりはすごかった（この場面は、ドキュメンタリーにある）。

RBGのことは知らない日本人でもこの大学の名前はきっと知っている。小室圭さんの留学先だから。この大学名に比べてRBGは日本ではそれほど知られてはいないようだ。多くの人は、今回の訃報で知ったのかも知れない。日本では知られていない彼女がどういう人で何をしたのかということは、次に紹介する二本の映画を見ればよく理解できよう。

二〇一九年に彼女の若い時代の出発点を描いた劇映画「ビリーブ　未来への大逆転」（原題は、テーマを直截に表すON THE BASIS of SEX）とその生涯を紹介するドキュメンタリー映画「RBG　最強の八五歳」が立て続けに封切られた。私は劇場で「ビリーブ」を見たが、「RBG」はこの原稿を書くためにビデオで見た。

「ビリーブ」は、彼女のハーバード大学ロースクールの時代から始まる。一九五六年、彼女は夫が学ぶハーバード大学ロースクールに入学する。その時、すでに結婚していて前年に出産した娘がいた。当時のハーバード大学ロースクールには学生五〇〇人のうち女子学生は九人しかいなかった。もちろん、大学から歓迎されたわけではなかった。一応共学であったので、成績優秀な学生を、日本のどこかの医学部のように、女というだけで排斥することはしなかった。しかし、歓迎されていないことは、学長主催の新入生歓迎ディナーで女子学生は学長から、男子の席を奪ってまで入学した理由を話すよう求められることで分かる。優秀で勤勉な彼女は、途中で癌に倒れた夫の分までノートを取り助ける。二人分の勉強をした。アメリカのロースクールの厳しい勉学環境を知っている人には信じられないことだ。日本の大学とは根本的に違い、本当に勉強をしなければついていけない。

二人で子育てと勉強を助け合い、夫は卒業後ニューヨークの大事務所で弁護士として働くことになった。彼女は夫の健康を心配して、ニューヨークのコロンビア大学に転籍し、そこを首席で卒業した。しかし、時は一九五九年、女性の弁護士はその能力には関係なく、法律事務所が採用することはなかった。理由は、もちろん、女であることだ。やむなく、地区裁判所判事の書記を経て、一九六三年から七二年までラトガース大学で法学を教える。同じころ、アメリカ自由人権協会（ACLU）に参加する。ACLUは法律家団体であるが、最も力を注いだのは表現の自由の擁護であり、必然的にポルノグラフィを表現の自由の観点から擁護する。彼女はそこで女性の権利プロジェクトの中心になる。

「ビリーブ」で描かれるのは、彼女がラトガースで教えているとき、夫のマーティンが税法専門の弁護士として働いていたときのことだ。ここから彼女が初めて性差別を争って勝訴した事件が始まる。ある日、マーティンは自分のところに来た税務関係事件が、ルースの興味を引くに違いないと見抜き、それを一緒に担当しないかと誘う。記録を読んでルースは引き込まれていく。事案は、女性や妻を亡くした夫には認められる介護費用の税金控除が独身男性には認められないというもの。男性が被害を受けている「性差別」事案であった。ルースはこの事件に心血を注ぎ、綿密な議論を展開した準備書面を作成する。誰もが敗訴すると確信していた。税法自体が、介護は女性の仕事であることを前提に作られていたから、税金控除は女性を庇護するためということだ。独身男性が親の介護をすることなど、あり得な

いと考えられていた。入念に作成された準備書面に基づき、ルースは夫と共に控訴裁判所での弁論に臨む。アメリカは日本と違って「口頭弁論」は文字通り法廷で述べるもので、ただ述べるだけではなく、裁判官からの質問に答え、議論をする場所である。しかも、弁論の時間は限定されており、その時間内に完結しなければならない。この日に備えて、ルースは自宅で予行演習をする。彼女と夫の弁論を聞く裁判官たちは、全員男性であり、性別役割分業の存在及びそれが性差別であり、被差別者に被害を与えるなどと考えたこともない人たちであった。被告は、州の男女差別の法律一七八をリストアップし、それを性別役割分業の正しさの立証に使った。しかし、ルースは理路整然と憲法から説き起こし、勝訴判決を勝ち取った。性別役割分業は自然の法だという裁判官の質問に対してルースに四分間の反論時間を与えられた。彼女は一八七二年のイリノイ州対ブラッドウエル事件から説き起こし、アメリカの法律がどのように性差別的で女性排除を行ってきたか、それらを乗り越えて今自分はこの場所に立っていることを力強く述べた。

因みに、ブラッドウエル事件は、イリノイ州が既婚女性が弁護士として法廷に立つことを禁止しており、それに挑戦したブラッドウエルは敗訴した。イリノイの裁判官は、既婚女性の役目は家庭にあり、法廷のように汚れた世事が満ちている場所に女性を入れないのは、女性が神に与えられた高潔かつ望ましい役割を果たすためである、神の定めた基本法は、家庭領域を女性の領分と機能に属するとしているとした。ルースは法は変わるべきことを訴えた。自分が今の法廷に立っていることがそれを証明していると。

この勝訴の結果、一七八の性差別法は改正された。ここからＲＢＧの性差別との闘いが始まった。「ビリーブ」はここまでであり、その後八五歳の現役判事としての活動、私生活等はドキュメンタリーで堪能できる。ドキュメンタリーで述べられているが、彼女は、「男性に対する性差別」として事件を扱っている。母子家庭にしか援助がなく、父子家庭が支援されないのは性差別と訴えるなどだ。その理由は、男性が性差別されることを訴える方が、差別の効果が社会によく見えるからだと説明している。多分、女性差別が社会の基本構造であるところでは、女性差別が女性に引き起こす被害は当たり前の見慣れた光景であり、見えないということのようだ。それを戦略として選択したということだ。なるほどと思うが、比べる扱いの男性がない女性の被っている被害は、この論法では掬われないだろう。ＲＢＧがＡＣＬＵのメンバーとしてポルノを擁護するのは筋が通っている。

ＲＢＧが扱った分野は法律そのものの性差別性であった。ＤＶも売買春もポルノも性暴力も被害者の多くは女性である。売春行為で女性だけが不利益を受けているから性差別であるという議論はこの論法では成り立たないだろう。男性が売春をする例は少ないからであり、単純に男性と比較する視点に留まるリベラル派の限界であろう。

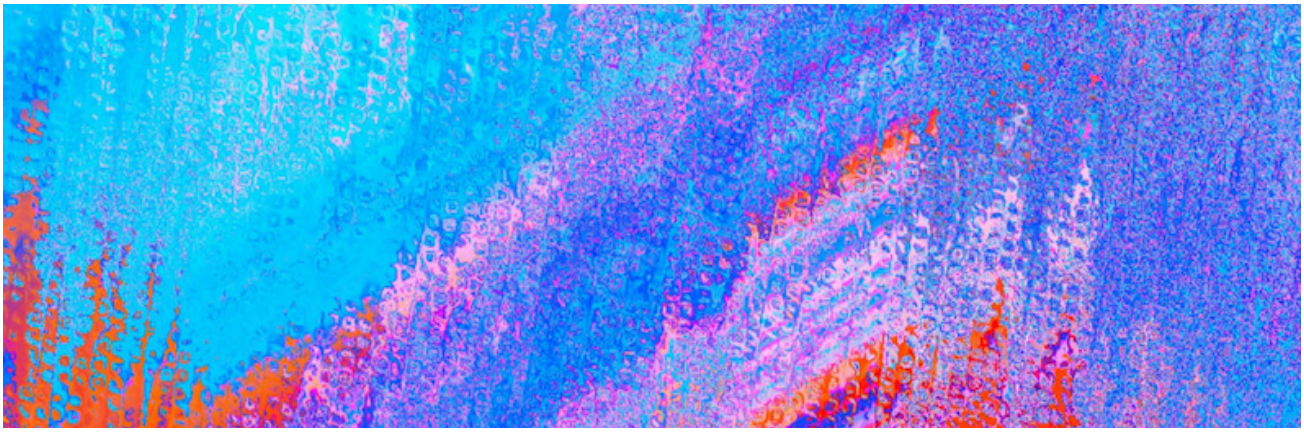
最後に、二つの映画を通じて感銘深かったのは、夫の生き方である。彼は家事の主な責任者であり、仕事の上でもルースを支えた。最初の事件を彼女にと「発見」したのは彼であったことは象徴的である。最近のイクメンなどという軽いノリは出る幕はないかもしれない。私生活でも、性別役割分業の入り込む余地がなかったのは、今の目で見ても、見事というしかあるまい。ルースがドキュメンタリーの中で語っていたが、マーティンは彼女の知性にひかれたとのことで男性権力を振り回すことなどなかった。それは彼が自分に自信をもっていたからだとルースは述べていた。女性に嵩にかかり権力を振り回す男性は、私たちの周りに山といるが、かれらは自分に自信がないということだと、私は納得した。

ＲＢＧを見て思ったのだが、彼女自身はそれは役回りでないということであったろうが、市民運動に直接参加することはなかったようだ。それも、彼女の立脚点と関係しているのかもしれない。娘は、グローリア・ステイナムの話を聞きに行ったりしていた。

七〇年代、アメリカでも日本でも女性の抑圧状態は似ていた。私自身は一九七五年に弁護士になったが、その年、女性弁護士は日本中の弁護士の三％であった。今でも二〇％弱だ。七〇年代のアメリカでは女性が銀行から融資を受けるには、夫が連

帯保証人にならねばならなかったと映画の中にあった。一九七六年、弁護士であった私は夫の留学資金の不足分を銀行から借りようとした。当時、弁護士会の協同組合と提携関係にあった某大銀行から融資（たかが二〇〇万円）を受けるには、「あなたは女性だから、男性の保証人を」と求められた。急ぐお金だったので、私は銀行と喧嘩する暇はなく、夫の同僚の男性弁護士に頭を下げて保証人になってもらった。二つの映画を見ながら、突然そのことを思い出して、あの時の屈辱感でもう一度ワナワナした。一九七〇年代には似たり寄ったりであった日米での女性の地位は、二〇二〇年には大きな差がついている。片や、女性が副大統領候補になり、片や、僅か二人（一〇％）しか女性閣僚はいない。日本にはRBGのような女性はいないかもしれないが、それでも女性たちは声をあげ、社会を変えようと頑張っている。

二〇二〇年一〇月四日



99％のための経済政策フォーラム

第八回講演会

「Withコロナの経済政策を語る議員シンポジウム」報告

羽立　教江

一〇月一日に参議院議員会館にて99％のための経済政策フォーラム（略称：99フォーラム）が開催されました。コロナ禍の下、今回は一般の参加者を募らず、関心のある議員及び報道関係者を対象に実施されました。（動画URLは末尾に記載）

シンポジストは、

末松義規　衆議院議員（立憲民主党）
落合貴之　衆議院議員（立憲民主党）
山添　拓　参議院議員（日本共産党）
柿澤未途　衆議院議員（立憲民主党）

で、この四名の方々には、あらかじめ市民からの四つのテーマに関する全二二問が送られました。

1．景気後退にどう対処するか？
①失業の増加について
②中小企業対策

2．格差拡大にどう対処するか
③賃金について
④「最低賃金」について
⑤最低生活保障
⑥ベーシックインカムについて

3．行財政政策について
⑦給付の場で、収入などをピンポイントでつかみ、しかも手続きを簡略化する方法は？
⑧デジタル・ニューディールについて
⑨地域主権による地域分散型経済
⑩グリーン・リカバリーについて
⑪新ニューディール政策について
⑫食料生産公社、再エネ生産公社のアイデアについて
⑬不振を極める日本企業の活性化をどうするか
⑭沈滞する国民の意欲を高めるビジョン
⑮規制緩和について

4．公正税制改革と財源
⑯大企業・富裕層の応能負担
⑰巨大企業・多国籍企業の税逃れへの対策
⑱国民的合意を得る方法を
⑲中間層への配慮と資産課税

⑳税制と社会保険料の関係
㉑国債発行の歯止めについて
㉒政権交代を可能とする三つの重点経済政策とは

これらの膨大な質問に対し、大胆かつ前向きの希望の持てる提案がつぎつぎと披露・展開されました。たとえば……

▼ベーシック・インカムは、切り捨てられる人が生じないような制度設計を行う。最低生活保障として、日本型ベーシック・インカムを実現する。

▼中小企業の最低賃金を一五〇〇円に引き上げる。年収が三一三万円となり、最低生活ができるようになる。一〇〇%国家負担で、五年計画で実施すれば、経済が回る。但し、自公政権が同意できない対立争点は、「最低賃金引上げ」である。

▼子供一人当たり月額五万円（年間九兆円）を将来への投資として、一五歳まで支給すれば、少子化対策と共に消費対策にもなり、経済が回る。

▼日本版ニューディール政策としての失業対策に注力する。グリーン・ニューディールで食料自給率を増やす。防災対策事業で雇用を増やす。

▼コロナは長期に続く。企業に短期成果を求める四半期決算方式を見直してはどうか。

▼貧富の格差が拡大している。稼ぐ力の無い人に、足りない所得を補足するための応分の給付を現金で実施する。

▼金持ち優遇税制が貧富の格差を拡大している。過去三一年間の法人税減税額は四〇〇兆円に達している。現在でも、利益五億円ベースの企業の納税額が最大で、一〇〇億円ベースの企業の納税額は少ない。

▼金持ちに彼らが喜びとする社会的「名誉」を与えることと引き換えに、相応の税金を課して払い易くする。

▼国の財源は、逆進性が強い消費税ではなく、応能負担原則に基づき、所得税・法人税の累進性を高める（累進度を過去の水準に戻す）

▼年金保険料の負担も「応能負担」とし、支払いにも所得に応じた累進性を採用する。

▼消費税は、五%以下に下げる。金融所得に課税する。

▼基礎年金の財源に対する公助部分を増やす。

▼社会保障、環境問題などの解決方向は、中央集権型の政策を、小規模・多機能分散型（地方分散型）社会へ転換していく。

▼産業構造の転換。これまでの日本の産業政策は、「外需に頼る」政策だったが、これは、石油輸入のためだった。これを、「内需に頼る、再生エネルギー内需型産業政策」とし、国際競争力を目指すのではなく、国民の幸福度アップを目指す。

▼GAFA（国際的巨大企業）に対する規制を強化する。GAFA（現在はタックスヘイブン税制を利用して納税を免れている）などへの課税をヨーロッパ諸国と協力し、課税に消極的なアメリカと国際交渉する。

▼デジタル・ニューディールについて、デジタル化は、中国のような個人情報の国家管理でなく、人権重視前提のヨーロッパ型とする。

▼国の収入を「税収オンリー制度」から、国家として税収以外の収入を得る道（方策）を講じていく。民間の研究開発補助をして、民間が利益を挙げた場合は、国も出資（補助）に応じて利益を受け取ってはどうか。

▼所得アップ主導内需経済の促進。個人金融資産一九〇〇兆円に対して、一年間だけ、贈与税をゼロにすると、親から子（若い世代）に対して資産の贈与が促進され、資産を受け継いだ若い世代によって消費が拡大する（消費拡大の妙案）。

▼一〇〇兆円規模の経済構想が必要である。中小企業の粗利保障を野党の経済政策の看板政策に！

▼消費税三党合意の時代から、流れが大きく変わった。「99%フォーラム」の活動の効果（影響）もあった。

このほか、今回のシンポジウムに対する、シンポジストの感想が述べられました。

▼（野党各党の）政策の共通項目を知ることで、（来るべき）選挙活動にも弾みがつく。

▼「99%の経済政策フォーラム」が立ち上がって二年、この二年間の活動で、「99%の経済政策フォーラム」の必要性の理解が進んだと思う。

・・・・・・・・・・・・・

以上、新進気鋭の経済畑の野党議員による、活力にあふれた講演を是非、左記URLで、ご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=TygXKrZblsE

国籍と遺書、兄への手紙

安田菜津紀

https://d4p.world/news/2375/

この記事はNPO法人Dialogue for People（ダイアローグフォーピープル）の許可を得て、同団体ウェブサイトより転載するものです。御協力に深く感謝いたします。

なぜだろう。三〇代になってからふと、亡くなった家族のことを思い出すことが増えたように思う。もしかするとそれは、当時の兄の年齢を、私が追い越してしまったからかもしれない。

兄が亡くなったのは、中学卒業を間近に控えた春だった。「前を向いて歩きなよ。過去は変わらないんだから」。当時の友人たちが、私にそんな言葉をかけてくれたのを覚えている。落ち込んでいる私を、何とか励まそうという精いっぱいの言葉だったと思う。その気持ちには今でも大きな感謝を抱いている。

けれども「過去は変わらない」というその言葉が、なぜか心に引っかかり続けた。

私の兄は母親が違い、兄の母親は私が生まれる前に他界していた。一三歳年が離れた兄は、なぜかいつも父に対して「です、ます調」の敬語を使っていた。「家族なのになんでいっつも敬語使ってるの？」不思議に思って幾度か彼らに尋ねてみた。

父も兄も、ただ笑って私を見つめ、何も答えてはくれなかった。

次第にこれは聞いてはいけないことなのかもしれないと思うようになり、私はいつしか尋ねるのをやめた。その一方で、丁寧な言葉を使い続ける兄の姿を見て、何だか父が兄を突き放しているように思えてきてしまった。

その後、私の母と父は離婚。小学校三年生から、私と妹は父と離れ、母と暮らすことになる。兄は既に社会に出て自立していたため、父とも兄とも会話する機会はぐっと減っていった。

兄が亡くなる一年前、中学二年生の時、父が亡くなり、戸籍を見る機会があった。その時、私は初めて父が在日韓国人であったことを知った。そして一緒に暮らしていた当時、父が兄を認知（※婚姻関係にない男女の間に生まれた子どもを、その父または母が自分の子であると認め、法律上の親子関係となること）していなかったことも分かった。

父はなぜこうも兄に冷たい態度をとり続けてきたのだろうか。父は兄を家族として見ていなかったのだろうか。益々不信感が募り、「父は本当に子どもたちを愛していたのか？」という疑問さえ湧いてきた。そんな「過去」を振り返るのは、苦痛でしかなかった。

募る一方だった疑問を晴らしたかったからだろう。そこから私は「在日」と呼ばれる人々の歴史や文化、国籍について調べるようになった。恥ずかしながらここで初めて、朝鮮半島と日本の間の歴史や、朝鮮半島にルーツを持つ人々が直面してきた困難を詳しく知ることになる。

私が高校生になった頃、少しずつネットが一般家庭にも普及していた時だった。すでに掲示板には一部、日本に暮らす韓国籍や朝鮮籍の人々に向けられた差別的な書き込みが並んでいた。父のルーツが日本以外の国にあることだけでも戸惑い、驚いていた私にとって、そんな誹謗中傷の言葉を目にするのは耐え難かった。そして「自分の父親の家族も朝鮮半島の出身らしい」と周囲に中々言えなくなっていた。自分のバックグラウンドの一部に、なぜ後ろめたさを感じなければならないのか。それ自体にも違和感をぬぐえなかった。

ある時、国籍法について調べていてふと、気がついた。私が生まれたのは一九八七年、そして国籍法が改正されたのはその二年前、一九八五年だ。改正国籍法の下では、父と母、どちらかの国籍を二二歳までに選ぶことになっている。つまりそれまでは、父と母、どちらの国籍も持つことが法的には可能だ。私自身も出生後、母の

国籍である日本国籍を持った。

ところがこの国籍法が改正される以前は、子どもは父親の国籍となることが定められていた。もしも父が結婚して兄が生まれた場合、兄は父の国籍である韓国籍となる。当時の兄が日本国籍を持つためには、父が結婚も、出生前の認知もしない、という選択をするしかないのだ。

すでに亡くなった人間に、詳しくを尋ねることはもうできない。けれども父が家族や周囲の人々に遺した僅かな言葉をたどっていくと、違った「過去」の姿が浮かび上がってきた。

朝鮮籍や韓国籍の人々のたどってきた道のりはもちろん一様ではなく、価値観も様々だ。ただ父はその中でも、「在日」という自身のバックグラウンドによって辛い経験、悲しい思いを積み重ねてきたらしかった。親族たちとの縁を殆ど絶ち、〝在日らしい〟生活のあり方も日常の中に残さないように努めていたという。

ただそれでも、ルーツの全てを消し去ることは難しい。父が兄に敬語を使わせていたのは決して冷遇していたのではなく、上下関係や礼儀を重んじる朝鮮の文化の名残だったようだ。

そして父が兄を認知していなかった理由もそこにあった。

韓国籍の子どもとして生まれるのか、それとも結婚していない夫婦の間の「非嫡出子」として生を受けてでも、母親の国籍と同じ日本国籍を持つ方がよいのか。当時、非嫡出子は戸籍に「長男」ではなく「男」と表記されることを含め、今より更に就職差別などにつながりかねない仕組みが指摘されていた。

それでも、韓国籍の子どもとして生れる方が、直面する困難が大きいと父は思ったようだった。

少し難しい話になるが、もしも兄が出生後、つまり兄が戸籍上は「シングルマザー」となる兄の母の元に生まれ、日本国籍を持った後、父が兄の母と結婚し認知すれば、兄は日本国籍のまま嫡出子となれたかもしれない。けれどもその前に父は、自分自身も日本国籍を取得しようと試みたようだ。その手続きが完了する前に、兄の母は他界してしまった。様々な想いと、そしてかみ合わなかったタイミングゆえに、その後も兄は「非嫡出子」となってしまった。

つまり父は、兄を切り捨てるような選択をしていたのではなく、愛情があるゆえに苦悩し、兄の将来を思いやるがゆえに決断を下したのだった。

これをもってして一概に「日本で外国籍として生まれた子は皆不幸だ」「認知されない方が幸せなのだ」と伝えたいのではない。飽くまでも父の経験に基づき、父なりの優しさを兄に向けたとき、これが彼のたどり着いた答えだった、ということだ。私にとって大切だったのはその選択に、兄に対する愛情を見出すことができたということだ。

それを示してくれた戸籍が、まるで父の意志が宿る「遺書」のように思えた。

それに気づいてから、私の中での「過去」の見え方は全く変わっていった。それまでは「もしもう一度父に会えたら」と想像したとき、「なぜ？」と何度も問うてしまうだろう自分がいた。「なぜ兄にあんな態度をとってきたのか」「なぜ彼だけが戸籍から外れていたのか」。そこには怒りにも似た感情があったように思う。けれど今、もし父に会えるとすれば、一言「ありがとう」と素直に感謝を伝えたいと思えるようになった。

私たちが何かを学び続ける理由は、そこにもあるのかもしれない。過去に起きてしまった事実は変わらないかもしれない。それをどう振り返るかによってその「過去」は、全く違った色彩を帯びて見えることがある。今、どうしようもなく苦しく、深い悲しみに見舞われていたとしても、時を経る中で、学び、気づかされたことによって、違った視野が開けてくるかもしれないのだ。

だからこそこれからも、学び続けたいと思う。今すぐに、真正面から振り返ることができなくてもいい。乗り越えられない自分を責める必要

もない。焦らず、ゆっくりと、自分のリズムを刻みながら、足元の気づきを少しずつ拾い集めてみる。いつしか振り返ったとき、そこには全く違って見える風景が広がっているかもしれないからだ。

ちなみに二〇一八年の「Pen」一一月一日号「手書きの味わい」という特集の中で、兄への手紙をこんな風に綴ってみた。

二〇二〇年三月一二日

兄さんへ

あなたにこうして語りかけるのは何年ぶりでしょう。ちょっぴり照れくさいですが、落ち着いて言葉を伝えたかったので、手紙にしてみました。

幼い頃、私はあなたがなぜ敬語を使っているのか分からず、「よその家の人みたい」とからかったことをどうか許して下さい。父さんが亡くなって初めて、父さんが在日韓国人だったこと、韓国の伝統は家庭の中でも年上を敬うことを知りました。

そんな事情を知らず、あのとき私はただただ、守られていたのですね。

年が13も離れ、違う母親から生まれたこともあってか、優しい兄さんなのに、近くにいるとどこか、緊張していたのを覚えています。

父さんが亡くなってから数年ぶりに電話で話したとき、「うちに遊びにおいで」と声をかけてくれましたね。受話器越しの約束は今も、果たされないままです。

こうして手紙を書いた理由がもう一つあります。

あなたのお墓の前に立ったとき、あなたの魂はもうそこにはない気がしたのです。自由になって今、どこを飛び回っているんですか？時々、私たちのことも見守りにきてくれていますか。

最後に。
世界中があなたを忘れても、私はあなたを忘れない。

オッパへ

兄さんへ

あなたの誕生日に、二度目の手紙を書きます。「国籍と遺書、兄への手紙」を書いてから、あなたの同級生だった人が連絡をくれました。そして初めて、知ったことがありました。

前の手紙に書いた通り、私とあなたは母親が違うし、私があとから家族に加わったことで、あなたに迷惑をかけているんじゃないかって、子どもながらに思ったこともあった。でも、兄さんはそんな態度、みじんもとらなかったよね。小学校の時、運動会に来てくれたこと、とても嬉

Dialogue for People ウェブサイト記事より転載

兄へ
もう、死ぬために働くのはやめよう
安田菜津紀

https://d4p.world/news/4297/

しかった。あの時応援してくれた記憶は、一生の宝物。

もしもあなたや父さんの死を経験していなかったら、私は「家族ってなんだろう」と深く考え ることも、その答えを求めて一六歳のときにカンボジアに行くこともなかったと思う。カンボジアに渡航しなければ、今の仕事には就いていないと思う。つまり、今の私の全てが違っていたと思う。でも、兄さんが亡くなった、「その経験のお陰で」とは絶対に言いたくないと思ってる。それは、あなたが死なずに済んだはずの、背後にある社会の問題を覆い隠してしまうことになるから。

あなたは高校生の時から一人暮らしだったけれど、その後、父さんと母さんが離婚し、父さんがこの世を去り、どんどんあなたとの縁が薄れていくような気がして、心細かった。

あなたが最期どんな風に亡くなったのか、なんとなくは聴いていた。でも、亡くなるまでに、何カ月も休みなし、働き詰めの過労があったなんて、知らなかった。居酒屋の店長さんだったもんね。代わりがいなくても、責任感の強い兄さんはきっと、お店 を回さなきゃって頑張り過ぎてたんだよね。

今でも覚えてる。私が中学3年生の冬だったと思う。亡くなる前の最後の電話、受話器越し に、変な感じがした。心ここにあらずで、誰に向かって話しているのかよく分からない感じだった。でも「忙しいのかな」くらいに思って、私電話切っちゃったよね。まさか、命を奪われるまで追い詰められていたなんて、知らなかった。「大丈夫?」とか、「何か困ってない?」とか、そのもう一言が、なんで言えなかったんだろう。

私はあの時中学生だったし、あなたが働きづめで亡くなったことを知ったとしても、自分なり受け止めようとしたと思う。でも、きっと真相を知ったら深く傷つくだろうって、皆気を遣ってくれて、言わなかったんだよね。あなたの周りの人だから、愛が深いほど悲しみも深いことを、よく知っている人たちだったんだと思う。

高橋まつりさんが追い詰められて亡くなったときも、「あってはならないことだ」って憤った。長時間労働が横行する、と懸念されていた「高度プロフェッショナル制度」が、不適切なデータを根拠にしためちゃくちゃな国会審議で通りそうになったときも、私なりに、声をあげたつもりだった。「おかしい」って。でも全部全部、あなたのことだったんだよね。そしてこのままだと、知らない誰かに明日また、起きてしまうことかもしれないんだよね。

でも、あなたが亡くなった後、あなたを最期まで見送ったのも、悲しみをこらえて会社側とやりとりを続けて労災を認定させたのも、あなたのパートナーさんだったんだよね。言葉を尽くせないくらい、感謝してる。そして私は、助けることも、力になることもできなくて、ごめんね。

きっと今でもたくさんの人が、この「ごめんね」を日々感じながら生きているんだと思う。一 人の人の命が奪われるって、こういうことなんだよね。「どうして支えになれなかったんだろう」「もっとできることがあったんじゃないか」、そんな感情を背負ってしまうから、声をあげることを躊躇してしまうんだと思う。

でも、どうしてこんなにも、声をあげられないんだろう。

ネット上で「過労死や過労自殺は自己責任」という言葉が物議をかもしたことがあった。心がずきずきと痛んだ。きっとこの言葉は、声をあげたくてもあげられない人の言葉を、もっと強く封じてしまうと思った。

過労死や自殺は〝自己責任〟なんて安易な言葉で切り捨てられるようなものではないはず。それしか選択肢がなくなるまで、追い込まれてしまった状態だと思う。

兄さんが亡くなってから、社会はどう変わってきただろう、と何度も考えた。相変わらず、過労で亡くなる人たちのニュースは続いている。亡くならないまでも、体や心を壊されてしまう人たちがたくさんいる。

父さん、兄さんが亡くなってから、

母さんは朝の新聞配達と、スーパーのパートを掛け持ったりしながら、私たちを育ててくれた。朝、母さんが新聞配達から帰ってきて自転車を止める音で目が覚めた。でもある時、体調を崩してしまった。親があんなに働き詰めにならなければならないことを、美談にしたくないと思う。

新型コロナウイルスの感染が拡大して、今たくさんのお店が苦しんでる。飲食店をやっていた父さんも兄さんも、生きていたらきっと対応に追われて、大変な思いをしていたと思う。でも、公的な支援はゆっくりゆっくりとしか進まない。働く人を守る仕組みは、まだまだ足りないんだということが改めて突きつけられてしまったと思う。

働くことは、命を奪うためではないはずだよね。もっといえば、働くことは、生きるための条件ではないよね。働けない状態になったときにも、安心できる居場所がある社会を作っていかなければいけないよね。

時々、思う。なんで、あんなに優しかった兄さんが死んで、私が生きてるんだろうって。でも、これからの私の生き方次第で、誰かの「後悔」をなくすことができるかもしれない。こんなことは、終わりにしなければならないから。せめて、教訓にしなければ、と今は思う。

私たちはチェスの駒ではないよね。経済を回すための歯車でもないよね。血の通った人間の話を、これからもっと、していかなければいけないのだと思う。

最後に。私がとても支えられている言葉を。自殺対策に携わる人が、ポスターに使った言葉。「弱かったのは、個人でなく、社会の支えでした」。

この言葉をもっと届けたいから、私は生きるね。これからも、あなたの妹として。

誕生日、おめでとう

二〇二〇年五月二五日

●安田菜津紀さん　フォトジャーナリスト
NPO法人 Dialogue for People（ダイアローグフォーピープル https://d4p.world/）副代表。現在、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。著書に『写真で伝える仕事 - 世界の子どもたちと向き合って -』（日本写真企画）、他。

安田菜津紀が副代表をつとめるNPO法人Dialogue for Peopleでは、「伝える」活動を通じてさまざまな社会課題に光をあて、共に生きていくための「対話」をうみだすきっかけを創出します。

「伝える」を「支える」ことから、世界とつながる

マンスリーサポーター受付中！

継続的なご寄付は「伝える」活動を支える大きな力になります。
単発でのご寄付も可能です。詳細はウェブサイトをご覧ください。

Dialogue for People　検索
https://d4p.world

----------FB から ----------

新聞、テレビなどでは扱われなかったり、小さくしか載らない大事な情報が、フェイスブック（FB）やツイッター、インスタグラムなどの SNS で迅速にかつ詳しく伝わってくる。中に混じってくるフェイクや裏付けのない情報をはねのけて、しっかり世界で起きている出来事に目を向けていきたい。メディアでは新型コロナのニュースに覆われた感があるが、そのほかにも大きな問題が進行している。会のＦＢから抜粋して紹介。

FB 投稿日（逆順）

10/14 WEB 論座の無料記事。
小児性犯罪で懲戒免職となった教師には免許状を再発行すべきではない（論座）
児童・生徒を教師の性犯罪からいかに守るか　杉田聡　帯広畜産大学名誉教授 (哲学・思想史)
https://webronza.asahi.com/culture/articles/2020101300007.html

10/14 **安全保障関連法に反対する学者の会」のウェッブサイトに、菅義偉首相による日本学術会議会員任命拒否に関する声明・要望書を発表した学会・諸団体の声明がアップされています。**（安全保障関連法に反対する学者の会）
http://anti-security-related-bill.jp/

10/9「ワシントン・ポスト」にも書かれてしまった。恥！
ツイッターで BLM への連帯を呼びかけたら…「大坂なおみは人種差別を語ると“日本の誇り”ではなくなるのか」米紙（COURRIER JP）
アメリカで白人警官による黒人暴行死事件が起きて以降、大坂なおみはツイッターで積極的に人種差別に抗議する声を上げている。これに対し「アスリートは政治に口出すな」「日本に差別はない」といった日本人からの反発が押し寄せたと、米紙「ワシントン・ポスト」が報じている。https://courrier.jp/news/archives/202006/?fbclid=IwAR2j_tFxbw9iYIsoMP6kjlMGDdXgg88baHEysUzzaWSa9oRL_wF9cUJVB5A

10/9 **# 排除する政治～学術会議問題を考える　「次はここなのか」　岡野八代氏と考える任命拒否　杉田水脈議員発言との共通点**（MAINICHI.JP）10 月 9 日
日本学術会議の新会員候補 6 人の任命拒否問題と通底する訴訟を提起した研究者たちがいる。自民党の杉田水脈衆院議員に、研究内容を「捏造（ねつぞう）」「活動家支援に科研費（科学研究費）を流用している」などと誹謗（ひぼう）中傷され、名誉を傷つけられたとして、京都地裁に提訴したジェンダー論やフェミニズムの研究者たちだ。その原告の一人、同志社大の岡野八代教授（西洋政治思想史）は任命拒否は「今後、科研費の申請、審査にも波及しかねず、研究者間の萎縮をもたらす」と警鐘を鳴らす。https://mainichi.jp/articles/20201008/k00/00m/040/197000c?fbclid=IwAR0E8s73L-ql5Jw6Q9x4ETcCSDjxg-N5TE2axuVMDirlj2mH1LxDUOjxCuM

10/9 **袴田事件を再審無罪へ。最高裁に立ち向かう、弁護団に応援を。**（Readyfor クラウドファンディング）
彼には、私たちには、時間がありません。もしかしたら明日から、彼はふたたび独房で、「死刑執行」を待つ身に戻ってしまうかもしれないのです。……必ず「無罪」を勝ち取るため、今日も弁護団は、新しい証拠集めに奔走しています。このクラウドファンディングは、その新証拠による立証を資金的にサポートするために立ち上げまし た。https://readyfor.jp/projects/free-iwao?fbclid=IwAR1mr5zYK1XYbx5NMPXeyoD7LC9Ornx7Y7GJcjQWD2n-VFPFRVDazhGn87Y

10/9 日本学術会議任命拒否問題、英科学誌ネイチャーなどにも批判が。
「非情な政界の黒幕」　海外科学誌、主要紙が菅首相の学術会議任命拒否を批判（毎日新聞）10 月 8 日
菅義偉首相が日本学術会議の一部新会員の任命を拒否した問題を、海外の科学誌や主要紙などが批判的に報じている。「学問の自由」の侵害として脅威視する見方が目立つ。世界各国で発生している事例の最新ケースとして注目を集め、日本の国内問題にとどまらなくなっているようだ。https://mainichi.jp/articles/20201008/k00/00m/040/141000c?fbclid=IwAR2stSCvav774N5mW31oduOLESHPW_6jif3FslbW1RHLVwTyRiNJ7SYPOhQ

10/9 田村さん、胸のすくような鮮やかな質問を繰出し追及！
田村智子（日本共産党）日本学術会議任命拒否問題 2020 年 10 月 8 日参議院内閣委員会（YouTube.com ）
https://www.youtube.com/watch?v=Y8JNjY8x2cE&feature=youtu.be&fbclid=IwAR1gkqtV0Z4lKlL4AFusMMecYDEd325DnyWoBUnxiphmJNvz8wWFW_8JQVg
文字起こし：国会パブリックビューイング。https://note.com/mu0283/n/nd240bb740eb6

10/7 **政治家が「学問の自由」を諭すドイツ　ドイツに住んでわかった西欧と日本の価値観の根本的な違い**（WEBRPNZA.ASAHI.COM）10 月 7 日

林正彦　天文学者　https://webronza.asahi.com/science/articles/2020100600002.html?fbclid=IwAR3AkHaTZJDM0mBo945FEc0Gb5EoA8ErI2zBXtd3BjHdxPktRxcuCeY340g

10/6 **「学問の自由とは何か」石川健治さん（憲法学者）、望月衣塑子さん、永井玲衣さん（司会）**（Youtube.com, 配信: Choose Life Project）https://www.youtube.com/watch?v=hTkB13gI9vM&feature=youtu.be

10/5 法政大学田中優子学長の力強いメッセージ。
【総長メッセージ】日本学術会議会員任命拒否に関して（法政大学）
……任命拒否された研究者は本学の教員ではありませんが、この問題を座視するならば、いずれは本学の教員の学問の自由も侵されることになります。また、研究者の研究内容がたとえ私の考えと異なり対立するものであっても、学問の自由を守るために、私は同じ声明を出します……もし研究内容によって学問の自由を保障しあるいは侵害する、といった公正を欠く行為があったのだとしたら、断じて許してはなりません……　https://www.hosei.ac.jp/info/article-20201005112305/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54

10/1 **菅首相、学術会議人事に介入 推薦候補を任命せず 安保法批判者ら数人ー しんぶん赤旗**（井上哲士　FB）
菅首相による学術会議人事介入という重大事態をスクープした今朝の赤旗一面……

10/1 野党はユーモアを。
中村文則の書斎のつぶやきー機能しないマスコミ（mainich.jp）
https://mainichi.jp/articles/20201001/ddl/k23/070/194000c?fbclid=IwAR2vCxcKgV1ka0uBrpX2Tp1OYWnGEjPMKXpV8QTvN0LZl9B0667OqKGOIg8

9/30 不屈館を失うわけにはいきません。守って伝え続けなければ。
瀬長亀次郎の軌跡を伝え、沖縄の戦後史 資料館「不屈館」を守る（A-port　クラウドファンディング）
沖縄の戦後史には欠かせない人物、瀬長亀次郎の資料館、「不屈館」は行政からの援助は受けず、民衆の支えによって成り立っている資料館です……新型コロナの影響で来館者が激減。運営自体も大変厳しくなっております。
https://a-port.asahi.com/projects/keep-fukutsukan/?fbclid=IwAR1Vc2AxhpO7oMkRnAuZayKyc1RfCbEQ2MOd9U2lXDRfMPJVpZV9XH_czjI

9/29 **宜野湾市議会「男女平等、多様性尊重条例」案の＜否決＞に抗議し、再上程、可決を求めます！**（change.org）
発信者：砂川 秀樹　宛先：宜野湾市議会　http://chng.it/JrG4jHTL2X

9/26 **「女性はいくらでもうそをつけますから」自民党・杉田水脈衆議院議員の性暴力被害者への発言撤回、謝罪、辞職を求めます。**（change.org）　発信者：フラワー デモ　宛先：自由民主党

9/25 **福島 みずほさんのツイート**
自民党の杉田水脈衆院議員が２５日の党内閣第一部会などの合同会議で、女性の暴力や性犯罪に関し「女性はいくらでもうそをつけますから」と発言したとの報道。性暴力を訴えた女性が嘘をついている可能性が高いということを言っているわけであまりにひどい差別と偏見である。強く抗議をする。

9/25 杉田水脈議員に抗議するオンラインのフラワーデモ。
自民党議員　杉田水脈発言に抗議する緊急フラワーデモ 2020.09.26　19：00 ～ ライブ配信（youtube.com）
自民党議員杉田水脈の「女性はいくらでも嘘をつける」発言に抗議する緊急フラワーデモを行いました。杉田議員の発言に対し、Change.orgで自民党に杉田水脈議員の辞職を求めました。https://www.youtube.com/watch?v=BQlvQzQItUU&feature=share&fbclid=IwAR1i7pRsEySe07VhtIFqA0J_uhWLl_U17mqshg85yW_3bfKveOkBZkHhtc0

9/20 故ルース・ギンズバーグさんをモデルにした映画です。
映画『ビリーブ 未来への大逆転』主演フェリシティ・ジョーンズにインタビュー、女性弁護士の感動実話（Fashion Press）
ルースを演じる上で最も難しかったことは？…“心から尊敬している人物を演じる”ということが、私にとって最も難しかったといえますね。……彼女は骨の芯から誠実な女性なのです。富や名声を求めるのではなく、“正義”の為に闘うことをモチベーションにしていらっしゃる。……だからこそ彼女はアメリカの女性史におけるカルチャーアイコンになっているのだと感じています…… https://www.fashion-press.net/news/46105

9/18 **デジタル性暴力の闇　動画流出をなぜ防げないのか？法改正の課題を問う。**伊藤和子 弁護士、国際人権 NGO ヒューマンライツ・ナウ事務局長（YaHoo! ニュース）
デジタル社会の今、性行為の動画が流出するリスクが高まり、現実のものとなっています。……びたびニュースになる動画流出は、氷山の一角にすぎません……https://news.yahoo.co.jp/byline/itokazuko/20200918-00198723/?fbclid=IwAR0diO0ODXpfEdzmBu7hbWXUYz20UgKzKikZlONGhRFNhnkLlEQxiV3fcv4

9/17 **尹美香娘の留学･マンション購入費疑惑､「資金出所の証明」容疑なし処分**（日本軍「慰安婦」問題解決全国行動）
検察は 14 日、野党とマスコミが提起した正義連の会計不正と尹美香議員の個人不正疑惑に対しては、すべて不起訴処分にした。 検察は尹議員が挺対協と正義連の資金を流用し、娘の留学資金などに使ったという疑惑（業務上横領）について、「3 億ウォンに達する留学資金は尹美香夫妻や親戚の資金、夫キム某さんの刑事補償金などでほとんど充てられたことが確認された」と明らかにした。http://www.restoringhonor1000.info/2020/09/blog-post_15.html?fbclid=IwAR2j_tFxbw9iYIsoMP6kjlMGDdXgg88baHEysUzzaWSa9oRL_wF9cUJVB5A

9/15「自助、共助、公助」の意味することは――
「人に迷惑をかけるな」という呪いと自助社会の絶望感　河合 薫　健康社会学者 Ph.D.（日経ビジネス電子版）
https://business.nikkei.com/atcl/seminar/19/00118/00091/?fbclid=IwAR1Vc2AxhpO7oMkRnAuZayKyc1RfCbEQ2MOd9U2lXDRfMPJVpZV9XH_czjI

9/14 サッカー元女子日本代表の永里優季選手が男子チームへ移籍。日本の女性、女の子たちへ大いなる励ましになるだろう。
アメリカ女子代表のミーガン･ラピノー選手が彼女のあこがれで､「女性であったりするとチャレンジできない雰囲気がある。そういう人たちが一歩踏み出す楽しさを感じてほしい」「女性や男性、人種差別などの境界線をなくして、フラットで仲良くしていける社会にしていければいい」（「赤旗」）と語る。
元なでしこ永里優季が男子チームへ「男子クラブでプレーする初の女子プロ選手として歴史を作る」（テレビ東京スポーツ）https://www.tv-tokyo.co.jp/sports/articles/2020/09/013596.html

9/14 **韓国の女性運動活動家が語る＃ MeToo 運動 ―いかに韓国女性たちはつながり、たたかったのか？**
オンラインイベント　9 月 24 日（木）18：00 ～：00 ～
https://www.facebook.com/events/314011809891539/

9/14 賛同される方、ぜひ拡散してください。
465 人中、女性はたった 46 人。このキャンペーンが話題です。幹事長、女性議員を本気で増やしてください！
衆議院の女性比率は、たったの９．９％ です。さすがに、まずくないですか？（change.org）
発信者：パリテキャンペーン・Voice Up Japan　宛先：各党幹事長 衆議院議員 http://chng.it/NVHN7VFxxK

9/11 エッ？ 「大阪都」という名称になるんじゃないの？
Q　今回の住民投票で賛成が多かったら大阪都になりますか。 A　なりません。大阪府のままです。「大阪都構想」というのは政策宣伝のための言葉で、かつ、現行制度ではできません。実際に住民投票をする以上、報道機関がこの言葉を使うべきでもありません。（渡辺輝人さん〔弁護士〕のツイート）

9/7**（相澤 冬樹さん）日本ジャーナリスト会議（JCJ）の JCJ 賞を赤木雅子さんと連名で受賞することになりました。**
9月5日に開かれた選考会で決まったと7日夕方ご連絡を頂き､赤木さんにお伝えしました｡ありがとうございます。（相澤 冬樹さんのツイッター）

9/3 マスメディアの責任と社会の劣化。白井聡さん、論座で語る。
政治・国際 安倍政権を総括する（WEBRONZA）
【2】無惨なる安倍政権を支えたマスメディア――民衆が自らの力を自覚してしまうことを、権力は恐れてきた
白井聡（京都精華大学人文学部専任講師）https://webronza.asahi.com/politics/articles/2020083100002.html?fbclid=IwAR3sJONdASfxRMWxgLDBzS7MbdM91YNVW0csawPlF9Q8qA1pGr842YSiuBw

8/28 **政治における区分から買売春の歴史まで。国立歴史民俗博物館で「性差（ジェンダー）の日本史」が開催**（BIJUTUTECHO.COM）
千葉・佐倉市の国立歴史民俗博物館で、ジェンダーが日本社会の歴史のなかでどんな意味をもち、どう変化してきたのかを 280 点以上の資料を通して問う歴史展示「性差（ジェンダー）の日本史」が開催される。会期は 10 月 6 日～ 12 月 6 日。https://bijutsutecho.com/magazine/news/exhibition/22576?fbclid=IwAR2XFqFYSR9lYDEchw2gsDxgdv5mdY35uqsI-IFERt_QkU64796FKmpm7wU

8/26 ベルリン国際映画祭の俳優賞の男女区分をやめると発表。「ジェンダー意識に敏感に」という趣旨だそうです。今更という感もありますが、映画の影響力の大きさを考えると、やはり遅ればせながら前進と受け止めてもいいかと思います。

俳優賞の男女区分やめます…ベルリン国際映画賞　「ジェンダー意識に敏感に」（東京新聞）

ベルリン国際映画祭の主催者は２４日、演技分野の賞を性別で分けることをやめ、来年２月の次回映画祭から「最優秀主演俳優賞」と「最優秀助演俳優賞」に統一すると発表した。カンヌとベネチアを含む世界３大映画祭では初めて。https://www.tokyo-np.co.jp/article/51133

8/19 本当に恥ずかしいことだ。

朝鮮学校にもクーラーを　支援団体が CF「日本の公立小と同じ環境を」　猛暑に苦しむ京都と大津（京都新聞）

校舎にクーラーが完備されていない京都府と滋賀県の朝鮮学校を支援するため、ネット上で広く整備費用を募るクラウドファンディング（ＣＦ）が始まった。朝鮮学校の空調設置に対する公的支援はなく、ＣＦの主催団体は「日本の公立校の子と同じように健康が守られる学習環境を」と協力を呼び掛けている。https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/324761?fbclid=IwAR1yJc09m7omiN5hHepGvrfW0sQ794KWbfjPmWBCr9Suvu-W9fQabM-rxqw

8/9 米軍基地、Ｇｏto 沖縄に押し付けているのは本土の私たち。

［沖縄　米軍コロナ禍］「沖縄はパラダイス」米兵、薄い危機感（沖縄タイムス）

【平安名純代・米国特約記者】「米国より安全。そして自由。沖縄はパラダイスだと思った」。米カリフォルニア州からやって来た米兵たちは、初めて目にした沖縄の印象をそう語った。……6 月中旬。軍のチャーター便で沖縄県の嘉手納空軍基地から入国し、基地内の施設で 14 日間の隔離期間を過ごした彼らは、米国出国時も日本入国時も新型コロナウイルスの検査は受けていない……https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/614045

8/8 小西 誠反戦平和のための軍事問題研究さんの FB。

ドローンで見る宮古島・保良ミサイル弾薬庫の現在！――今なら、まだ、保良ミサイル弾薬庫は止められる！

＊ミサイル弾薬庫の詳細内容は以下からー「宮古島・保良ミサイル弾薬庫の現在―300 日もの座り込みを続ける保良の人々！」https://note.com/makoto03/n/nd67173c1f202

8/8 もはや暴挙としか言えない。熊谷宏さんの FB。

（**原発除染土覆わず利用へ。飯館一栽培試験　野菜に拡大も。環境庁　方針転換。**（河北新報 8 月 8 日記事）

8/7 ニュージーランドのアーダーン首相のメッセージ。

アーダーン首相「核兵器ゼロがヒロシマと長崎の犠牲者に報いる唯一のこと」（HUFFINGTONPOST.JP）

原爆投下から 75 年を迎えた広島原爆の日。ニュージーランドのジャシンダ・アーダーン首相が、Twitter に投稿したビデオメッセージで、核兵器根絶を訴えた。広島や長崎で起きた惨劇に触れながら、「たった一つの爆弾が破滅を意味します」と強調。核戦争への備えや対応は不可能だと訴え、「食い止めるしかない」と核兵器禁止条約への批准を求めた。https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_5f2b76d1c5b64d7a55ee98d7?ncid=fcbklnkjphpmg00000001&fbclid=IwAR0ue8qNwWkARkEhvAm0FuPjj-P05282eqS4e52THA_GoAjay7_8jA9slrI

『一票で変える女たちの会」かわら版

★印刷版をご希望の方は左記ＦＡＸ、メール、ホームページの問合せ欄からご連絡ください。

★投稿大歓迎！

コロナ禍の中の暮らし、本や映画の紹介、地域での活動報告、選挙や地域の政治の動き、情報、ご意見、なんでもお寄せください。（一本について四〇〇字～一六〇〇字）

宛先：1pyodekaeru@gmail.com
郵便：〒 162-0823
東京都新宿区神楽河岸1の1
東京ボランティア・市民活動センター
　メールボックス No. 45
FAX：03-5684-1412
mail: 1pyodekaeru@gmail.com
HP: https://1pyo-de-kaeru.com

★カンパのお願い

私たちの活動に賛同する皆さん、ぜひカンパを！

郵便振替口座：
記号番号　00110-6-420003
口座名称　一票で変える女たちの会
イッピョウデカエルオンナタチノカイ
銀行等から振り込む場合：
店名（店番）　〇一九（ゼロイチキュウ）店　（019）
預金種目　当座
口座番号　0420003